

## あなたにも、私にもある ケンカの種

子どもが寝静まった夜

「なんでわかってくれないの！」

「あなたはそう考えるかもしれないけど、私はそう考えてない！押し付けなくて！」とかな切り声をあげる妻。

度重なる話し合いでも、お互いが理解できずに、折り合いがつけられない。わかってもらえないことに、怒りが溢れだし、彼女の手元にあった（壊れてもイイ）コップをとり、流しめがけて投げつけた。それだけでは収まらず、怒りの叫び声をあげた。それは静まり返った神学校の寮で響き渡った。

なんてヒステリックな妻なんだろうかと、うろたえた夫は、これ以上食器を投げないようと妻を抑え込む。

我が家で一番派手な喧嘩が24年ぐらい前のことでした。米国留学中、夫婦共に学び、乳飲み子を抱えて余裕のない中、私の学びに対して夫との意見のずれが生じたのです。学び始める時は応援してくれたのですが、授業の取り方など意見が合わず、妻は反対されていると思い、心を閉ざしてしまいました。

信仰があっても、コミュニケーションが成り立たず、それゆえに対立の解決まで達しない、冷たい家庭が多くあるように、私たちもコミュニケーションと対立の解決に課題を抱えていたのです。話し合いは、対立を生み出し、その対立は平行線をたどり、解決の糸口が見いだせませんでした。そこでは、夫の何気ない言葉が妻には非難と聞こえ、妻は怒り、夫は自己弁護、妻は非難（分かってくれない）、が繰り返されました。

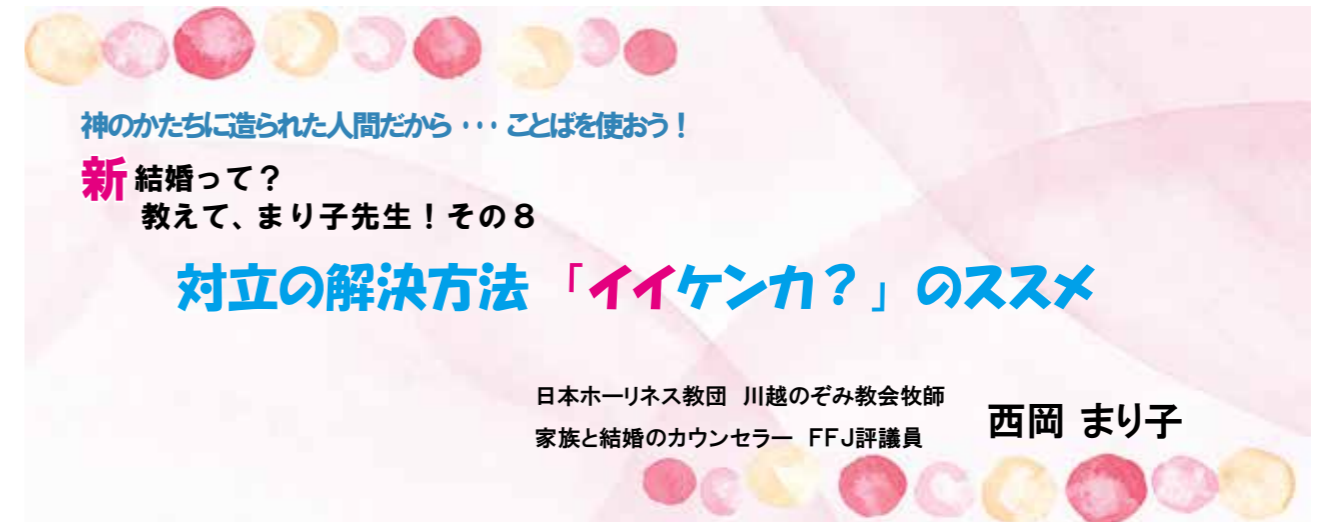
そんな二人の関係に変化の兆しが見えたのは数年後でした。夫の反対意見が減り、派手な喧嘩は起こらなくなりました。後日、夫の説教の中で「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」(ローマ12:15)と彼自身が主から示されたとの話を聞きました。

それでも、「わかってもらえなかった」思いを引きずっている妻は、夫に冷たく当たり続けたのです。「苦い根」(ヘブル12:15)が心に生えていました。その妻は、男女の違いを学び始めてから、夫の考え方、言い方が、男性的だったゆえに、女性である自分には受け入れられなかったことがわかってきたのです。また、夫を赦せない思いへの悔い改めを主から迫られました。余裕がなく、理解がなく、いつも責める口調の夫が悪いと思っていたのです。実はこの「夫が悪い」との考えの中にも女性的な主観があります。夫からすると、余裕はなくてもできるだけのことをしたし、理解しないのではなく、同意しないのであり、責めているのではなく、その点に疑問を感じそれを伝えているだけなのに…、との状態だったことでしょうか。しかし私は夫のものの捉え方を理解できずに、自分の捉え方で、赦せない思いに縛られ、イライラしていました。夫はどうであれ、自分の罪に対しては神と夫の前に悔い改めねばと、夫に赦しを求めて共に祈ったのです。

## 問題そのものを見る

それから、我が家の問題解決は、感情的な対立で終わることがなく、問題そのものを見ることができるようになってきました。もちろん、私の卒業式には、夫はバラ一輪を持って祝ってくれましたよ。

さらに、結婚カウンセリングプログラムの「プリペアー・エンリッチ」の翻訳と紹介に関わってから、逃げないで問題を伝えることを学び、問題解決のスキルも習得しました。イエスの大原則は、課題を感じたら、その相手と直接真意に向き合うことです。(マタイ18:15) 相手の罪でなかったとしても、怒りを感じているならば、その怒りを持続させる心の中に関係を蝕む悪魔が働いていくのです。(エペソ4:26)



## ケンカはしない方がイイ？

「ケンカはしません」という夫婦に時々お会いします。片方、または両方が柔軟に相手に合わせると夫もいないわけではありません。でも、多くの夫婦は、些細なことや、重大事などの意見が分かれ、悪意がなくても、自分の思い通りにならない現状や相手にイライラを感じ、ぶつけてしまうのです。ぶつけられた相手も怒りを覚え、自己弁護や、反論、争いへと発展するパターンはよくあるものです。法廷に行かない争いはケンカと称され、日常的に夫婦、家族の中で起こっています。近い夫婦・家族は、自分のすべてを出せる相手だから、遠慮なくお互いにぶつかってしまうのですが…。

## ぶつかり合いによっては イイもフルイもあるのでは？

ケンカには、①対立、②怒りなどのマイナスな感情と、③相手を打ち負かそうとする争い、④その言動が含まれています。どんなに相性が良い相手でも、対立し、マイナスの感情を持つ事があると思います。その時、どんな争いになり、どんな言動が出るかによって、その摩擦(ケンカ)が建設的(イイケンカ)になるか、破壊的(フルイケンカ)になるかが違ってくるのではないのでしょうか。

それは「あなたがたは怒っても罪を犯してはならない。」詩篇4:4(口語訳)と記されているように①と②のマイナスな感情(怒り)までは、自然なことでしょう。通常、怒っているから争いになると思いがちですが、箴言の知恵では、争いを起こすものは、**怒りをかき回すもの** 30:33、**ねじれた(よこしま、偽り、暴言をはく)心** 6:14、19、**憎しみ** 10:12、**高ぶり** 13:10、**激しやすい者** 15:18、**愚かな者のくちびる** 18:6、**あざける者** 22:10、**陰口をたたく者** 26:20、**欲の深い人** 28:25、ヤコブ4:1、2 となっています。

上記のような要因がガラテヤ5章の罪のリストにもあがる破壊的な争いとなっていくのです。それが「肉に属している人」Iコリント3:3の特徴でもあるのではないのでしょうか。

著名な結婚の研究者ジョン・M・ゴットマンは、「結婚生活を成功させる7つの法則」で、別れる二人は会話の中に「非難、侮辱、自己弁護、逃避」の「4つの危険要因」が洪水のように溢れていることを記しています。まさに、これらは箴言に記されたような態度が、非難、侮辱、自己弁護の言葉を生み出し、逃避行動へ向かわせているのではないのでしょうか。争いの始まりは、日常の中に散在しています。妻がついつい、愚痴などで話し出すと、「65%の夫は…妻のマイナスの感情を高めてしまう『4つの危険要因』で対応する」p152 ①と言われ、相性の悪い？夫婦のみならず、実はほとんどのカップルの抱える一般的な危険要因なのです。